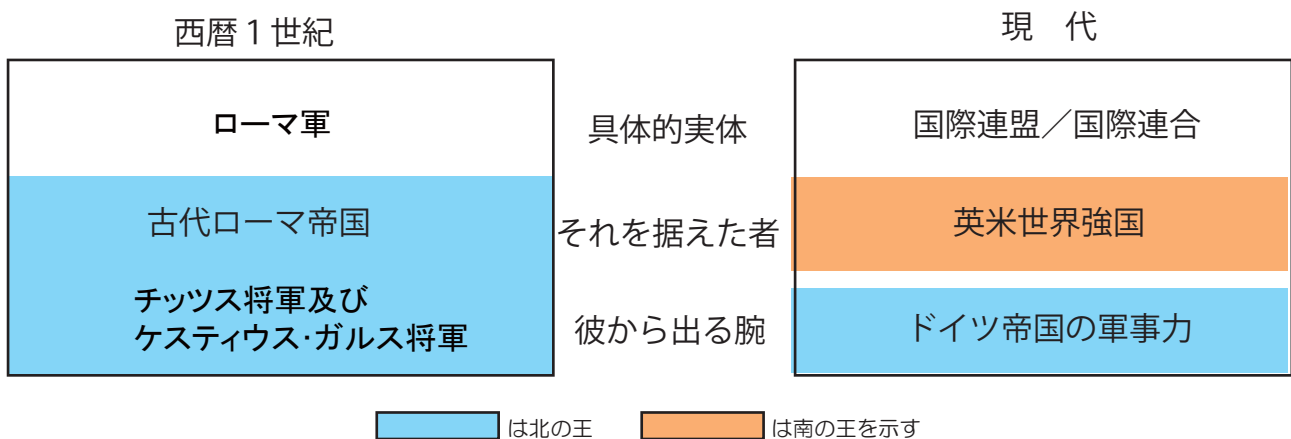


「荒廃をもたらす嫌悪すべきもの」は本当に国連ですか

「荒廃をもたらす嫌悪すべきものが、預言者ダニエルを通して語られたとおり、聖なる場所に立っているのを見かけるなら、…」(マタイ24:15)

「彼から出る腕があつて立ち上がる。そうして彼らは聖なる所を、要害をまさに汚し、常供のものをも除き去る。「また彼らは荒廃をもたらす嫌悪すべきものを必ず据える。(ダニエル 11:31)

下は、ものみの塔出版物の説明を図表化したものと、それらの出典の例です。



具体的実体

「嫌悪すべきもの」は 1919 年に現われたのです。やがて、国際連合が国際連盟に取って代わりました。エホバの証人は長年、これら人間の平和機構が神から見て嫌悪すべきものであることを暴露してきました。塔 99 5 / 1 14-18 ページ

それを据えた者

第一次世界大戦の 4 年に及ぶ惨事が終わりに近づいた時、米国の大統領ウッドロー・ウィルソンと英国の首相デービッド・ロイド・ジョージは国際連盟を提唱しました。このことに率先した人物に注目するのは興味深いことです。それら二人の指導者は、聖書の歴史に登場する 7 番目の世界強国、つまり英語を話す二つの国から成る英米世界強国の最高責任者でした。塔 88 6 / 1 25-26 ページ

第二次世界大戦中、英米世界強国はこの国際組織を生き返らせようと一生懸命に努力しました。1941 年に、英国の首相ウィンストン・チャーチルは、大西洋上の一隻の船の上で、米国のフランクリン・ルーズベルト大統領と密談を重ねました。両者は、「世界のより良い将来への自分たちの希望」および「より広い範囲に及ぶ、全般的な安全保障の恒久的な体制の設立」について共同宣言を出しました。塔 86 2 / 1 6-7 ページ

彼から出る腕

「ヒトラーは程なくして戦争に赴きました。「彼から出る腕があつて立ち上がる。そうして彼らは聖なる所を、要害をまさに汚し、常供のものをも除き去る」。(ダニエル 11:31 前半) この「腕」とは、第二次世界大戦中に北の王が南の王と戦うために用いた軍事力のことで

す。」一ダ 第 15 章 265-266 ページ

現代の（最終成就）「荒廃をもたらす嫌悪すべきもの」についての説明をまとめるとこのようになります。

「彼」（英米世界強国）から出る「腕」（ドイツ帝国の軍事力）があつて立ち上がる。
「彼ら」（英米世界強国とドイツ帝国の軍事力）は「荒廃をもたらす嫌悪すべきもの」（国際連合）を必ず据える。

南と北が協力して何かを据えるとういうようなことは、聖書はもちろん、歴史においても、こんな事は起きておりません。勘違いもここまで来ると滅茶苦茶としか言いようがありません。

聖書の記述の中で、「荒嫌者」に関して、「南の王」が関わる場所は、当然ですが全くありません。

また一世紀の成就の時にも、この出来事の中に「南の王」が関わる場所は全くありません。

ゆえに、聖句そのもの、及び歴史の事実が証明しているように、たとえ、どんな目的を持ったどんな王や、国や組織が現れたとしても、「北の王」が据えたものでない限り、それは「荒廃をもたらす嫌悪すべきもの」の実体とはなり得ず、聖書預言の成就ではないことは明白です。

よって国際連合の行動によって「大患難」が勃発するということは聖書的に絶対ありません。

少なくとも現代の「北の王」が誰なのかが分からないうちは、その者によって「荒廃をもたらす」者も据えられようもないので、「終わり」は近いとも遠いとも言いようがありません。

